

PREX NOW

公益財団法人太平洋人材交流センター PACIFIC RESOURCE EXCHANGE CENTER



September
2014
227

CONTENTS

- 1 ニュース & レポート① PREX とベトナム
- 2 ニュース & レポート② 「関西の中小企業で働くベトナム人社員向け管理者養成研修」を初実施
- 4 ニュース & レポート③ ベトナムに進出する日系企業のものづくりの現場を支える人材の育成をめざして
- 6 ニュース & レポート④ 関係者の声 近畿地域におけるベトナム進出支援の取り組み
- 7 企業訪問 (株)スーパーホテル、ゼロ精工(株)
- 8 PREX だより

ニュース & レポート ①

PREX とベトナム

今月号は、「ベトナム」特集号です。

PREX は長年にわたり、ベトナム対象の研修事業を実施してきましたが、今年度は、新たな形の事業2件をスタートさせました。背景には関西の多くの中堅中小企業が現在ベトナムへの関心を高めており、実際にベトナムに展開し活動を始める企業も増えているということがあります。今月号はこの新しい事業と合わせて、関西企業のベトナム展開に対する支援について、近畿経済産業局からのご寄稿も紹介します。

PREX のベトナムを対象とした事業の変遷

PREX のベトナム向け事業の歴史は長く、1990 年の設立直後から訪日研修、海外研修とともに事業を継続してきました。

1990 年代は「経済運営管理コース」「中小企業振興コース」など行政官を対象とした研修が中心でしたが、2004 年度以降はベトナム日本人材協力センターの「ビジネスコース」や「経営塾」を受講したベトナム企業の経営幹部、また講師など、行政官以外の人材を対象としたマネジメント研修を実施してきました。

関西企業のグローバル化と PREX の活動

PREX が途上国の人材育成のための研修事業を実施するに当たっては、企業の活動の現場を通じて理解を深めてもらうため、多くの関西を中心とした中堅中小企業を訪問し、経営者の方々からの講義や工場見学、また社員のみなさんとの意見交換などを積極的に取り入れており、PREX の研修事業には地元関西の企業の方々の協力が欠かせません。

一方、日本企業の多くが、グローバル化・海外展開に取り組み始めるのと同様、関西の中堅中小企業もグローバル化という課題に直面しています。

PREX の設立目的の一つに、途上国の人材育成を通じた人の交流の活性化によって関西の国際化に貢献するというものがあります。

関西の中堅中小企業がグローバル化で直面する課題に PREX としてお役に立てるのではないかと、ということから人材育成事業に取り組み始めました。

次頁以降にご紹介する「関西の中小企業で働くベトナム人社員向け管理者養成研修」と「ドンナイ省におけるものづくり人材育成事業」の2件は、まさにベトナムに展開しようとしている中堅中小企業にとって必要な、人材の育成という点で貢献することを目指しています。

ベトナムの帰国研修員と関西のつながり

PREX では、研修参加者が多い国を中心に「PREX 同窓会」を設立し、帰国後も参加者同士、また日本との間でネットワークを維持してもらうことを目指しています。

ベトナムにもこの同窓会が存在し、現在は 500 名弱のメンバーがいます。特に最近ハノイとホーチミンに開設されているベトナム日本人材協力センターで学んでいるビジネスマン向けに、日本での研修を継続的に実施協力していることもあり、ベトナムの企業経営者、幹部が PREX 同窓会のメンバーの中心となっています。

日本で実施する研修プログラムでも、ベトナム企業（研修員）と関西の企業の皆さんとの出会いの場を作るために意見交換会を開催しており、日本での出会いが、研修終了後、関西企業の皆さんがベトナムでビジネス活動される際のネットワークのきっかけになればうれしいと思っています。

(国際交流部 瀬戸口)

「関西の中小企業で働くベトナム人社員向け 管理者養成研修」を初実施

中小企業海外展開支援

ベトナム人社員向け管理者養成研修

7月15日から8月1日にかけて「関西の中小企業で働くベトナム人社員向け管理者養成研修」をPREXが主体となり、(株)クリエイションの先生方の協力を得て実施しました。

2週間の研修では、これまでのPREXが実施してきた途上国の人材育成事業の経験を活かし、グローバル化に取り組む関西の中小企業の声に応えるために、日本企業の経営の特徴や現場での取り組みの本当の意味について、ベトナム語で体系的に理解してもらえるカリキュラムを準備しました。以下では参加企業の声もご紹介したいと思います。



中川産業を訪問。

なぜベトナム人社員対象の研修なのか？

PREXは2008年に「途上国と関西にとってなくてはならない存在になることをめざす」というビジョンをまとめ、具体的にPREXが取り組むべき活動を検討しました。

その中の一つが「関西の中堅中小企業のグローバル化に役立つ、人材の育成事業」です。この活動を具体化するに当たり、研修実施の際に日ごろから協力いただいている中小企業を訪問し課題やニーズを伺う中で、海外の拠点を立ち上げ現地で活動を推進する際にその拠点の運営を任せられる現地出身の外国人社員の存在が重要になること、しかしそういう人材の育成は、言語の問題もあり自社内だけでは十分にできないで困っているという実情がわかりました。

そこでPREXが設立以来実績を積んできた、途上国の企業で働くマネージャー層を対象にした研修事業の経験を活かして、関西の中小企業で働いている外国人社員で、リーダーとして期待されている人材の育成のための管理者養成研修を実施することとしました。

PREXにとっても初めての研修となりますが、対象をベトナム人社員とした理由は、近畿経済産業局のご寄稿（本紙6頁）にもあるように、関西の多くの中小企業がベトナムへの関心を高めていること、またそれを受けて関西の各機関が集団的にベトナムに関する事業を展開していること、更には、実際に中小企業の現場で多くのベトナム人の社員さんが勤務していることなどです。関西企業のグローバル化・海外展開を一つの大きな流れにするために、PREXとしてもまずその一端を担えればという思いがありました。

研修を通じて変化した参加者の皆さん

研修には大阪の中小企業3社から5名のベトナム人社員が参加しました。それぞれ現場のリーダーや、ベトナム工場の代表になる予定という大事な役割を担っている皆さんです。

10日間のカリキュラムは①経営理念②カイゼン・品質管理・5S③チームワーク・動機付け・目標管理制度④人材育成・技能と技術の伝承・従業員満足の大きく分けて4つのテーマから構成されており、講義と合わせて、関連する企業の現場訪問も実施しました。

中には毎日の研修の前後に会社へ出勤し、日々の段取り指示や確認をしながら参加するという忙しいスケジュールをこなした参加者もいましたが、大変意欲的に受講していました。

最終日の成果発表やアンケートでも、「今まで理解



ホアンさんの熱い成果発表

できていなかった経営理念の必要性や 3S 活動の本当の目的を理解できた」「働く目的はお金だけではなく、やりがいや責任感を感じながら、会社や社会に貢献することだと考えが変わった」「研修で様々なことを経験でき参加できてよかった」などの反応が寄せられ、研修を実施した意図が参加者の皆さんにも伝わったのだと感じています。

ニーズのある企業に活用いただきたい！

PREX にとって初めての事業でしたが、参加者の皆さんの反応から、これから外国人社員を育成しグローバルに展開したいと考えている中小企業にとって、このような研修のニーズはあるのだと実感しています。

企業のグローバル展開の状況に応じて、ベトナムのみならずアセアンを中心に他の国の方を対象とした同様の研修のニーズがあると考えており、ベトナム以外の国の方向けの研修も検討したいと思います。

一方で、そんなニーズのある企業にピンポイントで事業の意義を伝え参加いただくという PR 活動の難しさも感じています。次回の実施に向け、評価と成果を多くの方に伝え、研修を必要としている皆さんにぜひ活用してもらえるように準備を進めたいと考えています。

(国際交流部 瀬戸口)



少人数でしたが、その分深く学び合えました

研修概要

実施期間 7月15日～22日、7月28日～8月1日の10日間

研修参加者 関西の中小企業で働くベトナム人社員5名

お世話になった方々、企業・団体（敬称略、訪問順）

- クリエイション 内海政嘉氏、今村敦剛氏、清水泰史氏、撫養和彦氏
- 松下幸之助歴史館
- 榛木金属工業
- 中川産業
- 三元ラセン管工業

参加企業の声

(株)中農製作所 取締役社長 西島 大輔氏

当社では、以前からベトナム人技能実習生、ベトナム人社員を採用しており、現在も10名のベトナム人が働いています。このようなベトナムの方々と接する中でベトナムへの進出を考え、検討を進めてきました。そして、今年の春、ベトナムのホーチミンに現地工場を立ち上げたところです。

今回研修に参加した社員2名は勤務経験6年以上の中堅で、今年から現場のリーダーとしての役割を任せたとところです。また、彼らの昇格と同時期にベトナム人の新人3名も入社し、新人の先輩・上司として指導役も担っています。

一方で、ベトナムと日本の経営のあり方の違いに悩んでいるところもあったようです。

「管理者養成研修」を受講したことで、社員自身もこれまで現場で取り組んでいたことの意味を理解し、それを自分の仕事や後輩への指導に生かしたい、と張り切っています。

研修に参加した後は、明らかに積極性や仕事への協力の姿勢も変わっています。

直属の上司からも、後輩への教育の重要性や自分自身のスキルアップの大切さも理解してくれていて、改善や5S活動など、日々の小さなことから、その背景にある大きな考え方までも学ぶことができて、よかったという評価を聞いています。

この研修に参加する企業はまだ少ないかもしれませんが、当社のように海外に拠点を立ち上げる企業にとって、リーダーとなる人材の育成に関するニーズは確実にあると思います。そういう企業には、次回以降、ぜひ参加してもらおうとよいと思います。



ベトナムに進出する日系企業のものづくりの現場を支える 人材の育成をめざして

専門家派遣

経営管理

ベトナム国ドンナイ省におけるものづくり人材育成事業

本年度から 2016 年度までの 3 カ年の事業として「JICA 草の根技術協力事業（地域活性化特別枠）ベトナム国ドンナイ省におけるものづくり人材育成事業」がスタートしました。

この事業は大阪府が提案団体となり、PREX が実施機関として、自治体との連携で推進する事業です。7 月下旬の 1 週間、この最初の活動として事前調査のため、専門家とともにベトナムを訪問しました。

一本の電話からのスタート

ベトナムの日本の中小企業の進出について研究されている専門家からの一本の電話が、この事業をスタートさせるきっかけでした。「関西では経産局が中心となって“関西ベトナム経済交流会議”を通じ、各機関の連携や情報共有、また実際に中小企業の共同進出なども進められている。現地に展開した中小企業が次に直面するのは人材の課題だろう。PREX の人材育成の経験をそこに活かせるのではないか？」という言葉に、PREX の役割を見出したような思いに駆られ、すぐに経産局、そして大阪府を訪問。アイデアをいただき相談の結果、JICA の草の根技術協力事業として大阪府と連携・提案することとなりました。

PREX として、中小企業のグローバル化にどういう側面から関わるのかについて議論が進む中、やはり設立以来業務の中心に据えてきた「人材育成」を通じて取り組むべきである、と認識を新たにし、その活動が最終的には関西の多くの中小企業の方々に活用してもらえるように、大阪府との連携実施という形を取りながらも、「関西ベトナム経済交流会議」の中の一事業という位置づけで、経産局が連携協定を締結していたドンナイ省での実施を決定。経産局からも多くのサポートを得て約 1 年前に JICA 草の根技術協力事業として提案しました。

この事業では、ベトナムに進出するものづくり中小企業に必要とされている、生産現場におけるテクニシャンクラス、リーダークラスの人材ニーズに応えるため、現地の技術者養成の中核を担う、職業訓練機関をモデル校とし、カリキュラムの改善と教員の指導能力向上を目指しています。

事前調査で見た中小企業のニーズ

7 月下旬、関空からホーチミンに到着し、すぐに一路ドンナイ省のビエンホアへ移動。最終日を除いた 5 日間はビエンホアに滞在しての事前調査活動となりました。

当事業ではモデル校として、ドンナイ省にある「ラックホン大学」「ロンタイン・ヌンチャック職業訓練短



ロンタイン＝ヌンチャック職業訓練短大の実験設備も見学しました。

大」の 2 校を選定しています。

今回の調査では、2 校での教育カリキュラム、機材や設備の状況、教員の指導方法などを確認することとあわせて、現地に展開している日系中小企業の人材に対する課題やニーズを確認することを目的としました。

ドンナイ省には、ロンドウック、ロテコ、アマタ、ロンタン、ヌンチャックなど多くの工業団地が整備され、日系のものづくり中小企業も進出しています。その中で今回は 10 社を訪問しました。企業の進出段階や規模、製造工程などにより人材ニーズも異なりますが、共通して言えることは、管理者やリーダークラスの人材が不足していること、現地の職業訓練機関卒業者は実践的な教育が十分ではないため即戦力としては活用が難しいこと、そして日系企業の製造現場に共通して必要な 3S、5S、安全管理などとともに製造現場に必要な基



ラックホン大学では学生がロボットを製作していました

本的な日本語の用語などは理解しておいてもらいたいというニーズがあるということです。

今回の調査を踏まえ、当事業では3年間をかけて日系中小企業の現場に必要とされている「基礎力」を養成できるようなカリキュラムの導入、また、事業終了後も継続できるような日系の中小企業と訓練機関の関係づくりなどを推進します。



モデル校、DIZAの皆さんと

本邦研修を10月に実施

本年10月から11月にかけて、モデル校の幹部およびカウンターパートであるDIZA（ドンナイ工業団地管理局）の関係者が参加する本邦研修を実施する予定です。

本邦研修では、当事業に専門家として参画頂いている大阪府立大学工業高等専門学校及び大阪府立淀川工科工校での指導の様子を紹介するとともに、カリキュラムの改変などについて検討を進めます。更に、関西の企業の方々にドンナイ省を紹介、職業訓練機関の幹部とのネットワークづくりになるようなセミナーを実施する予定です。（国際交流部 瀬戸口）

事業概要

実施期間	2014年7月20日～26日
委託元機関	JICA 関西
専門家	●大阪府立大学工業高等専門学校 准教授 土井智晴氏 ●大阪府立淀川工科高校 教員 木村千良氏 ●大阪府商工労働部 中小企業支援室 ものづくり支援課参事 領家誠氏 ●PREX 瀬戸口、坂口

TOPIC

「関西企業の窓口、関西デスク」

当事業の現地カウンターパート機関である「DIZA（ドンナイ工業団地管理局）」には、近畿経済産業局とドンナイ省との協力文書締結を受け、昨年10月に「関西デスク」が開設されました。

「関西デスク」はドンナイ省における関西企業のワンストップ窓口として、会社設立時の手続きやコンサルティングを担当しています。

「関西デスク」ではスムーズで迅速なサポートを

心がけており、今回の出張で訪問した中小企業の中にも活用・交流の実績のある企業もあったのですが、皆さんからの評価は上々でした。

DIZAには大阪の寝屋川で働いた経験のあるベトナム人職員もいます。今は片言の日本語が分かる程度ですが、日本企業の皆さんと更にスムーズにやり取りができるように、現在日本語の特訓を受けているそうです。

今後、ドンナイ省への進出を考えられる際には、ぜひこの「関西デスク」を活用ください。

「関西デスク」

住所：ドンナイ省ビエンホア市

ビエンホア工業団地2号26番地2A通り

TEL：+84-61-3892-381

FAX：+84-61-3892-379

E-MAIL：kansai@diza.vn

ホームページ：http://dongnaikansai.vn



関係者の声

近畿地域におけるベトナム進出支援の取り組み

近畿経済産業局 通商部 国際事業課 事業推進第一係長 片瀬眞悟 氏

「関西ベトナム経済交流会議」を立ち上げ

日本の中小製造業では、国内市場の縮小、法人税、後継者問題等の課題を抱え、海外進出を志向する企業が増加しています。2012年に近畿経済産業局が近畿地域の中小製造企業向けに行ったアンケート調査では、今後の情報収集や直接投資について最も関心のある国としてベトナムが挙げられました。また、2011年以降、毎年ベトナムへの投資件数が過去最高を更新しています。

このようにベトナムへの関心が上昇傾向であることを受け、近畿経済産業局が事務局となり、「関西ベトナム経済交流会議」を2012年7月に立ち上げました。参加メンバーとして、ジェトロ大阪本部、中小機構近畿本部、関西経済連合会、大阪商工会議所、大阪産業振興機構（IBO）、国際協力機構（JICA 関西）、海外産業人材育成協会（HIDA）、太平洋人材交流センター（PREX）、大阪府、大阪市が集い、各々の持つ施策や情報を持ち寄り進出を支援しています。

大きな柱－産業人材の育成支援

近畿経済産業局においては、2012年11月にベトナム商工省と、2013年4月にベトナム・ドンナイ省人民委員会（地方政府）と、2014年6月にベトナム・ホーチミン市人民委員会と、それぞれ経済協力に関する文書を締結し、裾野産業の育成やビジネス交流を支援していくことを約しています。その中では、産業人材の育成支援も大きな柱として掲げています。



訪越時。右から3番目が片瀬氏。



ロンドウックレンタル工場訪問

2012年に近畿経済産業局が行った調査によると、ベトナム進出後の日系企業の課題として、特に現地人材の育成、確保が挙げられています。この一因として、進出した日系企業が求める能力と、ベトナムの大学等教育機関修了生の持つ能力との間にギャップが存在していることが大きいと考えられます。このような構造を解消し、進出した企業により良い投資環境でビジネスを進めて頂くためには、現地人材育成支援を今後一層充実させていく必要があります。

オール関西として日系企業支援に貢献

PREXにおかれては、独立行政法人国際協力機構（JICA）草の根技術協力事業「ベトナム国ドンナイ省におけるものづくり人材育成事業」を今年度より3年間実施される予定です。

当事業は、優秀な現地人材を育成するため、ベトナムの教育機関・職業訓練機関のカリキュラム改善と指導者の能力向上、更にそれを以て進出企業との関係強化を図るものです。

本事業の対象地域であるドンナイ省は、近畿経済産業局が協力文書を締結した地域であり、中小企業裾野産業集積モデルの形成を目指しています。本事業を軸の一つとして、各機関の取組が一体となりオール関西として日系企業の支援に貢献できればと考えております。

企業訪問

PREX では年間 40 件前後の研修を実施し、多くの企業を訪問させていただいています。その中から長年ご協力いただいている 2 つの企業を紹介します。

(株)スーパーホテル 大阪市西区

お客様に感動的なサービスを提供する
スーパーホテル、日本から世界へ



今年 6 月にベトナム ハノイにオープンしたスーパーホテルハノイオールドクォーター

スーパーホテルは『安全、清潔、ぐっすり眠れる』というコンセプトをモットーに日本全国に展開するホテルチェーンです。昨年度の「中央アジア講師育成研修」では、「Lohas JR 奈良駅」を訪問しました。スーパーホテルの経営品質についてお話を伺うとともに、館内も見学。ウズベキスタンとキルギスの研修員にとって、顧客サービスは大変関心の高いテーマです。ホテルにおいて宿泊客によりよいサービスを提供することで高い経営品質を支えているのは、現場のスタッフの皆さんですが、毎朝実施されている朝礼を研修員に実際に見せてもらいました。経営理念を浸透させるための日々の活動や、スタッフ間のコミュニケーションの重要性を深く実感することができた研修員からは「スーperl! (すごい!)」の一言でした。

最近では多くの日本企業が進出する状況を受け、海外出張のビジネスマンへ現地でも日本ならではのおもてなしを提供するため、海外へのホテル進出を行っています。昨年にはタイ（バンコク）にて、今年 6 月にはベトナム（ハノイ）で開業しました。



中央アジア（ウズベキスタン・キルギス）の研修員に「スーパーホテルの経営品質」についての講義後の記念撮影

ゼロ精工(株) 兵庫県尼崎市

～匠の卓越した高度な技術が
世界で戦える製品を生み出す～

皆さん。この写真の製品、なんだかお分かりですか？

尼崎で製造されているペンスタンド「溜息 3 秒」です。

ペンをペン立てに挿し、それがスーッと収まる時の様子からネーミングされています。

この製品を製造しているのが、尼崎市にあるゼロ精工です。

ゼロ精工は飛行機や油圧機器などに欠かせない精密部品を製造しており、その中で培われた精密な旋盤加工技術で、オリジナル製品として製造されたのが「溜息 3 秒」。

経営戦略や製造現場でのものづくりへのこだわり、組織マネジメントなど多くのことを学ぶことのできる企業として、PREX の実施する研修でも、毎年様々な国の研修員が訪問させていただいています。

同社には、過去 10 年間で 13 人のベトナム人社員が勤務されていて、今年も 2 名のベトナム人社員が入社予定とのこと。先輩からの指導を受けながら仕事を覚えるのですが、ベトナムの皆さんは大変熱心に作業に取り組むので、2 年もすれば先輩を追い越して作業を進められるまで成長するということです。



5 月にゼロ精工を訪問したマレーシアの研修員。一番右側が同社の岡本会長

～ 2013 年に PREX を退職し、現在ベトナムのホーチミン市で商業施設の設計・施工関連の仕事をしている北村さんの現地レポートをお届けします。～

ベトナムコラム

ベトナムへ来て約 1 年半が経過しました。ベトナムの生活にも慣れ、最近では 50CC のバイクを購入し（ベトナムでは 50CC 以下のバイクは免許不要）、ベトナム人に混じって通勤ラッシュを戦っています。

日本のニュースでも大きく取り上げられていたようですので、ご存知の方も多いかと思いますが、2014 年 1 月にベトナムで初めて本格的な滞在型ショッピングモールとして、ホーチミン市にイオンモール 1 号店がオープンしました。また、高島屋もホーチミン市に百貨店の開業を予定しており、工事が進んでいます。これまでベトナムへの進出というと、安価な人件費を背景に輸出向けの生産を行う輸出加工型の企業が圧倒的に多かったのですが、最近では「消費市場」として今後増えていくであろう中間層をターゲットとした進出が増えています。



ランチタイムのペッパーランチの様子。お客さんのほとんどはベトナム人です。

ベトナム人は一般的に飲食費に支出の多くを割く傾向にあり、市内のデパート

やショッピングセンター内にあるレストランやカフェは値段が少々高めでも賑わっているところがたくさんあります。例えば日本でもおなじみのペッパーランチ。ホーチミン中心部にあるユニオンスクエアというショッピングセンターの地下にお店を構えています。ランチタイムには大勢のお客さんで賑わっています。価格は約 100,000 ドンから 250,000 ドン（日本円で約 500 円から 1200 円）と日本の価格とそれほど変わりません。一方で衣類や化粧品等、地元の割高と映った物販はまだ苦戦を強いられているところも多いようで、写真が大好きなベトナム人はショーウィンドーの前で記念撮影をするだけで、購入しないというのが実情のようです。

多くの小売業がベトナムに興味をもっているのは確かですが、外資の小売業には政府の規制があり、進出の妨げになっています。ベトナム進出を諦め、外資規制の少ないカンボジアへ先に進出した日系企業は結構多いようです。未発達な投資環境といかに向き合うかということが、ベトナム進出の大きなポイントの一つと言えるでしょう。

多くの小売業がベトナムに興味をもっているのは確かですが、外資の小売業には政府の規制があり、進出の妨げになっています。ベトナム進出を諦め、外資規制の少ないカンボジアへ先に進出した日系企業は結構多いようです。未発達な投資環境といかに向き合うかということが、ベトナム進出の大きなポイントの一つと言えるでしょう。

多くの小売業がベトナムに興味をもっているのは確かですが、外資の小売業には政府の規制があり、進出の妨げになっています。ベトナム進出を諦め、外資規制の少ないカンボジアへ先に進出した日系企業は結構多いようです。未発達な投資環境といかに向き合うかということが、ベトナム進出の大きなポイントの一つと言えるでしょう。

(PREX OB 北村)



ホーチミン市。日本の ODA で地下鉄 1 号線の工事が始まりました。（2020 年に完成予定。地下鉄沿線を狙った開発が増えそうです。）

人の動き



北條 俊彦

（国際交流部担当部長 2014 年 9 月 1 日付 住友電気工業株式会社より出向）

住友電工では、入社以来ブレーキ、ワイヤーハーネスといった自動車関連事業に携わっていましたが、これ迄とは少し異なる分野での業務に、「自分に何ができるのか？」と、少し緊張気味です。タイ・中国と延べ 12 年間の駐在とマレーシア・ベトナム等アジア地区での海外業務も多かったこともあり、PREX のミッションである「中堅マネージャー育成支援を通じて、アジア・太平洋地域途上国の発展のお役に立てる」よう、自分の経験を活かしつつ、頑張りますので、PREX へご支援を戴いている皆さま、職場の皆さま、ご指導宜しく願致します。

インターンシップ 生の声

PREX では交流活動として留学生、日本人学生のインターンシップを年間 3 名程度受け入れています。今回は、京都橘大学上田明花さんのインターンシップの体験をご紹介します（受入期間 2014 年 8 月 18 日～ 29 日）。

インターンシップ期間中は毎日様々なことを学び、刺激を受けました。事務作業、研修の同行、会場設営などの業務を体験し、細かい作業の積み重ねがひとつの仕事をつくり、準備がいかに大切かということを実感することができました。

また PREX の活動を深く知ることができ、より国際協力に興味を持つようになり、今後 PREX がどのような活動をされるのかとても楽しみです。インターンシップで学んだことは私にとってかけがえのない経験となりました。



PREX の研修実績
(1990 ～)

研修

616 コース

研修員

143 カ国・地域

15,718 名

受入研修

5,553 名

海外研修

10,165 名

2014 年 10 月現在

PREX NOW 第 227 号
2014 年 9 月発行

編集・発行：公益財団法人 太平洋人材交流センター 専務理事 北村耕一

〒 543-0001 大阪市天王寺区上本町 8-2-6 大阪国際交流センター 2 階 TEL：06-6779-2850 FAX：06-6779-2840

ホームページ：http://www.prex-hrd.or.jp/ E-mail:info@prex-hrd.or.jp